

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 29 年 4 月 12 日現在

機関番号：32615

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2016

課題番号：25370092

研究課題名(和文) ジョナサン・エドワーズ研究の国内拠点設置とその初期運営

研究課題名(英文) The Establishment and Initial Management of the Jonathan Edwards Center Japan

研究代表者

森本 あんり (MORIMOTO, ANRI)

国際基督教大学・教養学部・教授

研究者番号：10317349

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：イエール大学との協力関係をもとに、日本初・アジア初のジョナサン・エドワーズ・グローバル・センターを開設し、その初期運営にあたった。ドイツとポーランドに設置されたセンターを訪問し、運営状況と国際学会の開催例を調査した。国内では、エドワーズやピューリタニズム一般に関する研究を発表した。計画最終年度には、アメリカ、韓国、オランダなどの研究者を含む14名の発表者を得て、国際学会を2日間にわたり開催した。その成果は、イエール大学発行のジャーナルと国際基督教大学発行の紀要に掲載された。また、日本センター独自のホームページを開設し、今後の継続的な研究拠点として機能させる態勢を整えた。

研究成果の概要(英文)：The project established the Jonathan Edwards Center Japan, one of the seven Global Centers around the globe and first in Japan and in Asia, on the campus of International Christian University, Tokyo. The Center is operated with the cooperation of Yale University to promote studies on Jonathan Edwards across institutions and disciplines. After making formal visits to the Global Centers in Germany and Poland, the project leader organized an international conference with the theme of "the transcultural impact of Jonathan Edwards" in March 2016. The conference was held for two days, featuring 14 presentations by scholars and researchers including those from the United States of America, Korea and Netherlands. The result was published partly in the Yale University online journal and partly in the International Christian University Bulletin of Humanities.

研究分野：西洋思想史

キーワード：エドワーズ 初期アメリカ ピューリタニズム 神学思想

## 1. 研究開始当初の背景

本研究は、本邦でほとんど論じられたことのない対象を扱うものである。本邦には優れたアメリカ研究者も多いが、その関心は近現代の政治経済面に大きく偏っており、思想史や宗教史となると、ジャーナリズムを越えた研究はきわめて少ない。独立革命以前の歴史に注目する研究者はさらに少ないが、アメリカは「アメリカとなってゆく過程」を理解することなくして十分に理解することはできない。

しかもこの問いは、アメリカ国内では自己の文化的アイデンティティに関わる問いとなるため、研究者層も厚く、日米間の格差がとりわけ目立つ分野となっている。

アメリカは、しばしばヨーロッパ人から「中世なき近代」「宗教改革なきプロテスタントイズム」と評されてきたが、本研究は一方でその中世的な前提や系譜を明らかにすると同時に、他方では近現代へと連続してアメリカ社会の基底を構成する諸概念の由来を論じるために、両延長線の交差点に立つ思想家としてのエドワーズに焦点を当てている。

## 2. 研究の目的

アメリカ思想の神髄といわれるジョナサン・エドワーズ（1703-1758）の研究を本邦でも本格的に開始し、ピューリタニズム関連を扱う研究者のネットワークを構築して研究体制を確立する。

そのために、イエール大学との研究協力契約を締結した国際基督教大学に、ジョナサン・エドワーズ・日本センターを設立し、その初期運営にあたる。

## 3. 研究の方法

計画初年度には、ジョナサン・エドワーズ・日本センター開設のための基盤整備事業を行い、イエール大学本部や他国のグローバル・センターの運営状況を調査する。

計画最終年度には、イエール大学のエドワーズ・センターとの共催により、国内外の専門研究者を集めて記念国際学会を開催する。

また、エドワーズの基本文献を漸次翻訳し刊行してゆくことで、広く国民への知的還元を図る。

センターの活動は、新しく開設するホームページで公開される。学会や研究会の活動内容もホームページに公開されるが、これらは自動的にイエール大学本部のホームページ

にもリンクされ、そこでも公開されるため、日英両語での世界に向けた発信が可能となる。加えて、世界7カ所に置かれたグローバル・センターとの連携も強められるため、国内海外ともに強い発信力をもつことができる。

日本センター独自のホームページでは、国内の研究を支援すると同時に、学会活動や研究者の連絡母体となることにより、本研究計画の終了後にも継続的に研究の拠点として機能する態勢を整える。

## 4. 研究成果

本研究では、イエール大学との協力関係のもとに、国際基督教大学敷地内に日本初・アジア初のジョナサン・エドワーズ・グローバル・センターを開設し、その初期運営にあたった。

計画初年度には開設のための基盤整備事業として、関連図書などの収集を行い、センターの構成メンバーとして、国内から3名（3大学、日本国籍2名、外国籍1名）の研究者の加入を得るに至った。

第2年度には、ドイツとポーランドに設置されたグローバル・センターを訪問し、意見交換を行うとともに、センターの運営状況と国際学会開催のための諸方策などを調査した。

また、エドワーズの基本的文献の翻訳選集（全7巻）を企画し、そのうちの2冊を刊行した。続く3冊の翻訳事業も進行中で、今後数年以内に出版される予定である。その間、日本ピューリタニズム学会において、エドワーズやピューリタニズム一般に関する研究発表を行った。

計画最終年度には、開設された国際基督教大学「ジョナサン・エドワーズ・日本センター」において、国内外の専門研究者による国際学会を2日間にわたって開催した。この学会では、アメリカ、韓国、オランダなどの研究者を含む14名が研究発表を行った。

国外からの主要発表者の日程調整の結果、計画年度最終年冒頭に予定されていたこの国際学会が最終年度の年度末に変更になったため、その成果を公開するため、研究事業を1年延長し、その延長年度に学術出版を行った。

その主な成果は、イエール大学発行のオンラインジャーナル Jonathan Edwards Studies に見ることができる。同誌は、世界のエドワーズ研究の中核部分を構成しているが、2016年の第2号を本国際学会の特集号とし、

研究代表者を編集委員会に請じ入れた。同編集委員会による慎重な審査の結果、国際学会の14名の発表者のうち、5名の発表内容をイェール大学センター発行の同誌に掲載することになった。

他に、国際学会を主催した研究代表者の学会趣旨説明と、オックスフォード大学出版局発行の直近の研究書から転用された発表者の原稿を（同大学出版局の許可を得た上で）国際基督教大学「キリスト教と文化研究所」発行の紀要 *Humanities: Christianity and Culture* に掲載した。以上計7本の掲載論文は、いずれも英文である。

また、日本センター独自のホームページを開設し、オンラインで国内の研究を支援すると同時に、学会活動や研究者のための継続的な研究拠点として機能させる態勢を整えた。

#### 5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 7 件）

- ① Anri Morimoto, *A Faithful Narrative of the Surprising Work of God at Jonathan Edwards Center Japan*, *Humanities: Christianity and Culture*, 査読無, volume48, 2016, pp.1~11, 国際共著, 科研費への謝辞あり, URL: <http://subsite.icu.ac.jp/research/icc/journal/#jrn13f>
  - ② Anri Morimoto, Preface, *Jonathan Edwards Studies: Yale University Online Journal*, 査読有, volume 6-2, 2016, pp.91~92, 国際共著, 科研費への謝辞あり, URL: <http://jestudies.yale.edu/index.php/journal/article/view/238>
  - ③ 森本あんり, 自由・正統・権威——ピューリタニズムの伝統から現代日本が学び得ること, *ピューリタニズム研究*, 招待有, 10 巻, 2016, 2~11 ページ。
  - ④ 森本あんり, 有限は無限を容れるか (finitum capax infiniti)——三書評に答えて, 招待有, 東京大学大学院総合文化研究科アメリカ太平洋地域研究センター編, *アメリカ太平洋研究*, 14 巻, 2014, 154~159 ページ。URL: <http://www.cpas.c.u-tokyo.ac.jp/pub/pas14.pdf>
  - ⑤ 森本あんり, ハビット論による実体概念の変革——ジョナサン・エドワーズの哲学と神学, 招待有, *イギリス哲学研究*, 36 号, 2013, 5~16 ページ。
  - ⑥ 森本あんり, 幸福を追求するアメリカ人——反知性主義と宗教, 招待有, *アステイオン*, 79 号, 2013, 29-42 ページ。
  - ⑦ 有江大介, 「J. S. ミルのイエスと J. H. ニューマンの神——ヴィクトリア時代知識人にとっての信仰とは」, 査読有, *日本ヴィクトリア朝文化研究学会『ヴィクトリア朝文化研究』* 14 号, 2016, 33-61 頁
- 〔学会発表〕（計 6 件）
- ① Anri Morimoto, Opening Remark, International Conference on Jonathan Edwards, 2016 年 3 月 26 日, Jonathan Edwards Center Japan, 国際基督教大学（東京都三鷹市）, （招待講演, 国際学会）。
  - ② Daisuke Arie, Jonathan Edwards' s Critique of “the deceitful feeling of liberty” by Lord Kames in 1757, International Conference on Jonathan Edwards, 2016 年 3 月 26 日, Jonathan Edwards Center Japan, 国際基督教大学（東京都三鷹市）, （招待講演, 国際学会）。
  - ③ 森本あんり, 反知性主義再論——アメリカ的系譜と日本の反応, 初期アメリカ学会, 2016 年 1 月 9 日, 上智大学(東京都千代田区), (招待講演)。
  - ④ 有江大介, 神はどこにおられるのか? ——ヴィクトリア時代知識人にとっての信仰と科学, 日本ヴィクトリア朝文化研究学会第 12 回年次大会, 2015 年 11 月 21 日, 同志社大学(京都市上京区)。
  - ⑤ 森本あんり, <正統>はどのように作られるか——アジア神学からの問い, シンポジウム「東アジア・キリスト教研究の課題と展望」, 2015 年 1 月 31 日, 南山大学(名古屋市昭和区), (招待講演)。
  - ⑥ 森本あんり, ピューリタニズム研究の歴史的視角を再考する——時間軸と地理軸から, 日本ピューリタニズム学会, 2013 年 11 月 16 日, 青山学院大学(東京都渋谷区)。
- 〔図書〕（計 2 件）
- ① ジョナサン・エドワーズ・(翻訳者) 大久保正健・(監修者) 森本あんり, 原罪論, 新教出版社, 2015 年, 411 ページ。

- ② ジョナサン・エドワーズ・(翻訳者) 柴田ひさ子・(監修者) 森本あんり, 自由意志論, 新教出版社, 2016年, 398 ページ。

[産業財産権]

○出願状況 (計 0 件)

○取得状況 (計 0 件)

[その他]

ホームページ等

(日本語)

ジョナサン・エドワーズ・日本センター

<http://jec.japan.info.icu.ac.jp/>

(英語)

Jonathan Edwards Center Japan

<https://sites.google.com/a/info.icu.ac.jp/jec-japan-en/>

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

森本 あんり (MORIMOTO, Anri)  
国際基督教大学・教養学部・教授  
研究者番号：10317349

### (2) 研究分担者

有江 大介 (ARIE, Daisuke)  
横浜国立大学・大学院国際社会科学研究院・名誉教授  
研究者番号：40175980

### (3) 連携研究者

なし

### (4) 研究協力者

なし